広報
なかつえ
51年8月号
第152号
発行所
編集発行人
大分県・日田
中津江村
斉藤隆一

盆踊り大会（丸蔵小学校にて）

人口の動態

昭和51年7月31日現在

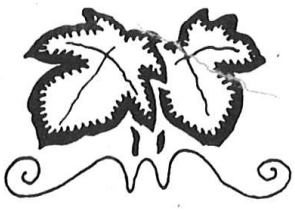
人　口	2,347人
男	1,123人
女	1,224人
世帯数	609戸

〈今月の主な内容〉

P 2　電話ダイヤル自動化について
　　納税優良団体等表彰
P 3　花木生産部会発足
P 4　ガンの話
　　津江ことば
P 5　栄養メモ
　　㊐簿記講座に参加して
P 6　文化財紹介（21）
　　その他お知らせ

〈9月の行事〉

1日　防災の日
13日　世界の法の日
15日　敬老の日
20日　動物愛護週間
23日　秋分の日



電話ダイヤル自動化について

来年１月の改局予定

近く、私たちの村も電話が自動化されることになっています。七月には区長さんや部落員さんにお願いして、いま設置されているものや、これから新しく設置を希望される電話を調べていただきましたが、その結果がまとまりました。

七月末の全世帯数五百九十六世帯、電話加入者四百四十三世帯で、現在の普及率は七十四・三％、今回の調査で電話新設希望者は百九世帯となっています。この分が新設加入できた場合、中津江村の電話普及率は九十一・一％となります。

電話が自動化される時期としては、今のところ昭和五十二年一月を予定して、電々公社の方ではその準備作業を進めているそうです。すでに資材の搬入、電話柱の立て替えなど一部では工事が始められています。この自動化は、津江局、鯛生局ともに同時に改局されることになっています。

使用料は度数制に！

～一回10円～

電話のダイヤル自動化が実施されると、これまでは津江局と鯛生局と村内に二局あって局の範囲を越えたところの通話は市外扱いとなり、通話料を支払っていたものですが、これが市内扱いとなり通話料は不要となります。

しかし、自動化になれば度数制が適用され、市内でも一回十円の使用料が必要となるそうです。

なお、共同電話については、三、四人共同の加入ができましたが、これからは二人までの共同加入しかできなくなりました。

設置料等が増額に！

ただし、次期臨時国会で料金改定法が制定されますと、今回電話の設置申し込みをされた分の設置料が、単独新設で三万円、共同新設で一万八千円、共同を単独に設置替えで一万二千円程度それぞれ増額されることになります。また、基本料も現在の五割増、通話料もいままでの一分間七円が十円に増額されるそうです。

優良団体等表彰

村は八月四日、役場会議室で納税組合長会議を開き昭和五十年度の「納税優良団体」、「国民健康保険健康家庭」、「国民年金優良団体」の表彰をおこないました。

納税優良団体は川辺上など四十組合

納税優良団体は四十納税組合で、特に表彰を受けた組合は川辺上の十年連続して納期内に村税を完納したもので、このほか五十年度中に納期内完納団体で表彰を受けたのは、梁瀬、小野田、野田、宮田、中村、田ノ口、荒瀬、辛味打越、栃原一、二班、二又、小園、川辺下、八所、原部、合鶴平野、鶴田、木弓、原二班、梅野、高迫、石場、吉原、提、スダレ、下切上、下、才野、鯛生一、二、四、五、七班、市ノ瀬一、二班、池田、柿ノ谷、宮原のそれぞれの組合です。

国民年金完納引野など三組合

五十年度中の国民年金を完納され、もっとも被保険者の多い団体として表彰された組合は引野、丸蔵、市ノ瀬一班の三組合です。

健康家庭表彰渡辺さんなど九世帯

健康家庭表彰は、五十年度一年間一度も保険証を使わないで保険税を完納している渡辺国広さん、武原連さん、江島ミエさん、田中ツギさん、児塔セツノさん、湯村龍延さん、緒方堅さん、川上七郎さん、赤星三男さんがそれぞれ表彰されました。

中津江農協――花木生産部会が発足

農協では、今まであった花木部会を解散して花木生産部会として再発足することになりました。

今までの花木部会は、昭和四十二年に花木盆栽を趣味としていた方々を対象に作り方、育て方を主に研修してきました。決して今までの部会が悪かったのではありませんが、農協の経済事業と多少異なりますし、本年五月初めに下筌ドライブイン広場にて第一回の花木展示即売会を催したところ、金額にして六十数万円の売り上げがあり、その後反省会をおこなった結果、山取りでは品物がそろわない、価格がまちまちで販売がむずかしい等の意見が出され、部会強化の話がもちあがり、組織を再編して七月二十二日再発足することになりました。

なお、盆栽等の趣味のある方につきましては、ご希望がありしだい、農協、公民館などの活動としてのばして頂くよう努力したいと考えています。

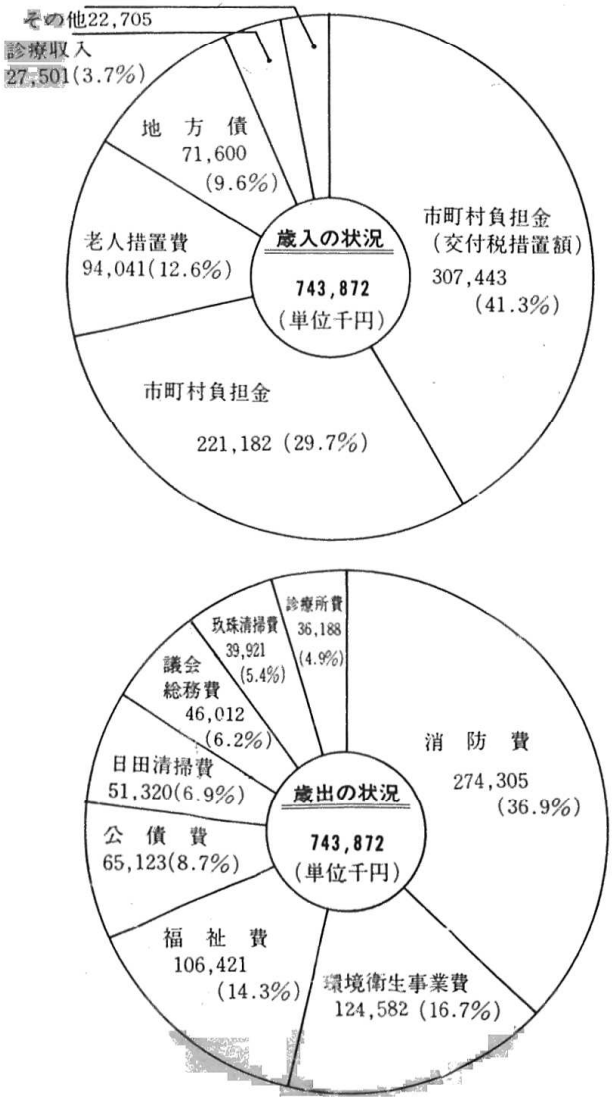
また、今後の花木生産部会としては次のようなことを計画しています。

一、栽培技術の研修
一、種類の統一
一、先進地の視察研修

このほか本年の主な事業として、一部員当り千本以上の栽培をおこない、二～三年後は年間一万本以上のシャクナゲ、ドウダンの出荷を共同販売で実施する予定です。以上のような趣旨で発足しましたので、村民の方々のご協力をお願いします。趣旨に賛同される方はいつでも加入できますので、農協指導係までおたずね下さい。現在部員十三名で新役員は次の通りです。

会長～永瀬喜一、副会長～高木加幸、監事～高原重俊、山口安夫

昭和51年度予算の状況



このような事業を行なっています

―日田珠珠広域市町村圏事務組合―

日田玖珠地域を１つの日常生活圏として、昭和44年に広域市町村圏の指定をうけてから早くも６年がたちました。

広域市町村圏の事業は、市町村が共同で行なったほうがより効果がある公共施設を作ったり、一緒に事業をすることによって、住民福祉の増進とサービスの向上に努めています。

◆計画している事業◆

(1)日田葬祭公園
(2)コンピューターの共同作用
(3)日田養護老人ホーム
(4)広域観光宣伝
(5)日田郡し尿処理場の引継

◆実施した事業◆

(1)村落を結ぶ市町村道の整備
(2)広域会館
(3)特別養護老人ホーム
(4)日田清掃センター
(5)玖珠環境衛生センター
(6)玖珠清掃センター
(7)玖珠耳鼻いんこう科医院
(8)広域消防、救急業務

そのほか、日田玖珠の地域振興や、水資源対策、地域バス対策など共通する課題についても、市町村相互の立場を尊重しながら話し合いを行なって、よりよい地域づくりを進めています。

〈健康メモ〉

ガンの話

おもしろい話ではありませんが、私たちは死から当然のがれることができません。その死をどういう形でむかえるのでしょうか。

日本人の死亡原因の一位は脳卒中、二位がガン、三位が心臓病の順になっています。ところが三十五才～六十才の働きざかりの年令層に限ってみると、脳卒中でなく、ガンが一位になります。この三十五才～六十才をガン年令と言い、特にガンに対して注意を払うことが必要になってくる年代です。ガンは体のあらゆる所にでき、年間十三万人もの人がガンでなくなっています。そのうち四十％の人が胃ガンで命をおとしているのです。胃ガンでなくなる率は、男性は世界一、女性もチリに次いで二位です。

ガンの話には必ず早期発見、早期治療という言葉がでてきます。早く発見するかどうかが治るか、手遅れになるかのわかれ目になるのです。たとえば、胃ガンの場合、早期ガン（胃の内側の粘膜だけにできたガンⅠ期）の間に治療すれば百％の人が治りますが、進行ガン（胃壁の外側まで達したガンⅤ期）の場合は、治療しても十％の人しか治りません。

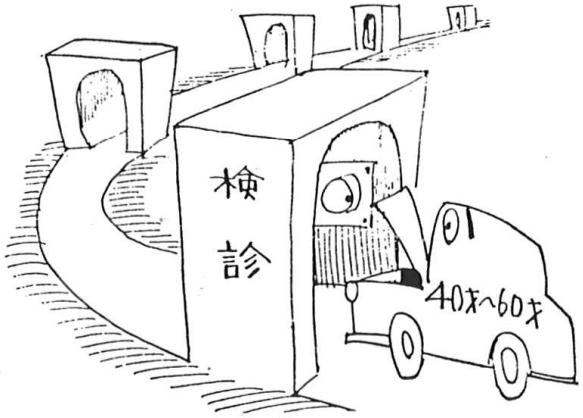
ガンの部位別死亡順位

	１位	２位	３位
男	胃	肺	肝
女	胃	子宮	肝

ガン検診を！

ところが、ガンの初期にはご存知のとおり症状が出てきません。そこで大切なのが健康な時に受ける検診であるわけです。早期ガンから進行ガンになるまではかなりな期間があるといわれています。一年に少なくとも一～二回は検診を受けて安心をしたいものです。役場でも対ガン協会の協力を得て、毎年、胃と子宮のガン検診をおこなっています。しかし、当村は受ける人が特に少なく、胃ガン検診は対象者の十％、子宮ガン検診でも三十％しかいません。三十五才過ぎた方は自分の健康は自分で守るという意気込みで検診を受けてもらいたいと思います。

ガンの場合、症状はあてになりません。定期検診を受けて安心を！



津江ことば(6)

ハ行

ハガイィ	くやしい
バサレ	とても
ハジケェ	チカチカする
ハツル	たたく
ハリコム	頑張る
ハンガチェ	半日
ヒキソザス	傷つける
ヒコズル	引きずる
ヒダリィ	空腹
ヒラケタ	困った
ヒロツク	がつがつ食べ物をあさる
フーデグチ	口から出まかせ
フートクネェー	だらしない
ヘベ	へび
ベーラ	小枝のたきぎ
ボク	困った
ホジクル	えぐる
ホド	身たけ

第29回県体

当村から23名の選手

九月十一日から十三日までの三日間、大分県民体育大会が竹田直入地区でおこなわれますが、当村からも各種目に二十三名の選手が出場します。各選手の健闘を期待したいと思います。

なお出場する種目及び選手は次のとおりです。

※陸上競技～児塔民和、岩下和生、猪野丹佑、渡辺辰已、武原勇一郎、永瀬康敏
鷹野潤、高木望、三樹輝男
※山岳～岩釣賢三、杉野喜一郎、桑野民行、原田敬子
※剣道～斉藤隆一、江田正義、小宇佐尚志
※バドミントン～森本久宣
江田智子
※卓球～河村又一郎、井上重人、高原真裕美、遠藤千恵美
※野球～中原邦彦

（敬称略）

声

簿記講座に参加して

毎年、税金申告の時期になると、かき集めた領収書類、とびとび記入した家計簿を前に青息吐息…、整理の仕方も知らなかったのです。「簿記イコール専門知識」、頭からそう思い込んで敬遠していた私が簿記講座に参加したのは必要に攻められてでした。自分の無学さを披露するようで恥ずかしく、誰にも内緒で一回目の講座に出かけました。

開講一番に見せられた経済新聞掲載の各会社の決算報告、「これが簿記ですよ」、簡単に言われる先生。十ケタ、十一ケタにも並んでいる数字の行列。保育園の子どもが大学の本を開いたような心境でした。しかし、汗びっしょりになりながら教えて下さる先生の講義により、少しづつわかってきました。

月に二回、一回が二時間づつ、まだ三回目を終えたばかりですが、メモ帳ぐらいの私たちの記録の中からでも、ちゃんと仕訳ができ、貸借対照ができ、損益計算ができることを知りました。資産、資本、負債勘定…と少しずつ少しずつわかってきはじめました。今まで数字のお化けと敬遠した簿記と少し仲良しになれそうです。

難しいことまでわからなくてもいい、最低限家計簿の整理ができればと、今後がんばるつもりです。

栃原　梶原良子

自動車税の納税相談がおこなわれます

自動車税は毎年五月が納税月であることはすでにご承知のことと思いますが、県より送付された納付書をどこで、どのように納入してよいかわからないという人が多数みられます。

県の自動車税事務所ではこのようなことから自動車税すべてのことについて、広く納税者の方々にわかって頂く事を目的とした「自動車税納税相談所」を本村で開設することになりました。当日は自動車税事務所から係員が来村し、皆さん方の相談に応じることになっていますので、ぜひ利用して頂きたいと思います。

自動車税の計算、自動車の登録と税の申告、車検用の納税証明書について、身体障害者等に対する税の減免または自動車税の納税に口座振替ができることなど、納税者にとってもっとも便利な方法などの御相談に応じます。

※開設日時　九月二十日
　十二時～十五時まで
※開設場所　中津江村役場

栄養メモ

台所と衛生

国民の食生活の多様化とともに食品衛生に対する関心は年々高まってきていますが、食中毒の発生は今なおあとを絶たない現状です。

昨年の食中毒の発生状況をみると、患者数約四万四千人、発生件数約千七百件で、とくに夏期に年間の発生件数の約六〇%が集中しています。手指の衛生に心がけると共に台所の衛生にも気をつけましょう。〝まないた〟や〝フキン〟が清潔でなくては、せっかく心をこめて作った料理も台なしです。

特に〝まないた〟は木製ですので、表面の切りこみのところに細菌が残り不衛生です。使用した後は、熱湯をかけながらタワシでよくこすり、太陽光線にあててよく乾かすことが大切です。また最近プラスチックやゴムの〝まないた〟が出回っていますが、衛生面ではすぐれた特徴をもっています。

〝フキン〟についてもずいぶん気を使って洗っているようですが、これも洗い方が悪ければ細菌が残ります。水道で流し洗いして半乾きにしたままの状態が一番残存細菌が多く不衛生ですので、〝フキンかけ〟などにかけっぱなしにしないで、石けんで洗い日射で乾燥させ、これを清潔な容器に入れておき、使用目的に応じて取り出すようにした方が衛生的です。

（体力つくり六月号より）

妻に給する普通扶助料の加算があります

従来より旧軍人等で恩給を受けていた人が死去した場合は、その妻には普通扶助料が支給されていますが、４月１日から扶養遺族の子に加算措置があるので、該当者は役場福祉係まで申し出て下さい。

なお、このことは戦没者の妻に対する公務扶助料ではないので誤解しないよう。

道路愛護作業にご協力を

道路の維持管理につきましては、県道、村道にかかわらず常日頃から皆様方のご協力を頂き、深くお礼申し上げます。

例年、秋におこなっています全村一せいの道路愛護を９月６日～９日の４日間おこないたいと思っていますので、皆様方のご協力をお願いします。

くわしいことは、あとで区長、部落員さんを通じてお知らせします。

「ふるさと大分」写真コンテスト

いま、私たちの社会では高度経済成長、消費第一主義の反省に立って「物」から「心」の時代への転換が叫ばれています。たしかに経済の高度化は、物の面ではかってない進歩をもたらしましたが、反面、いろいろなひずみなども生じ、人びとのなかから「ふるさとの心」が失われようとしています。

「ふるさと大分」写真コンテストは、私たちを生みはぐくんでくれた郷土を見つめ直し、その作品を今後「ふるさとづくり運動」の推進に活用しようとするものです。

※写真のねらい～伝統産業、郷土芸能や民俗行事、歴史遺産とのふれあい、村美化運動、ふるさとの自然、体力づくり、その他「ふるさとづくり運動」の趣旨にそうもの。

※作品～カラー、モノクロ、単写真、組み写真の別を問わない。作品の大きさはモノクロは４つ切り以上、カラー（プリント）はキャビネ以上。

なお応募方法など、くわしいことは教育委員会までおたずねください。

文化財紹介(21)　石風呂

辛味部落の岩本重信氏宅に石風呂が残されている。

この石風呂は花崗岩で作られていて、高さ七十六㌢、直径が九十㌢、七十六㌢のだ円形で、深さは六十一㌢、大人一人がやっとはいれる程度の大きさである。

風呂を沸かすには中央に三十二㌢の炊口があり、これに鉄板をはめこんで水がもれないようにして炊いていたので風呂が沸くまで時間がかかっていたが、一度沸けば石の厚みが十㌢あるので、なかなか冷えなかったようである。

大正年間頃まで使っていたということである。

県下にも色々な形式の石風呂があるが、大きな花崗岩の岩石をくりぬいて作った石風呂はめずらしく貴重な文化財である。

戦時中には炊口をセメントでふさぎ防火用水として使われていた。

雑記

立秋が過ぎ、朝夕はしのぎやすくなったとはいえ、まだまだ残暑はきびしいようです。

よく乗り物の中で居眠りをしている人を見かけます。暑さのため、夜ふかしのため、理由はいろいろありましょうが、暑いと疲れるのは体内の新陳代謝が盛んでたくさんのエネルギーが消耗されるためです。そこで暑さによる疲れを防ぐには、体内の酸を多くしないよう食べ物にくふうすることが大切です。それには野菜、果物などのアルカリ性の食べ物を多くとり、牛乳などカルシウムをとることが疲れを防ぐ一番の方法です。

また居眠りは、あまりカッコのいいものではありませんが、疲労回復にはいいわけです。どんなときでも眠れる人は、それだけ新陳代謝がおう盛で、健康な証拠といえます。といっても居眠りを奨励するわけではありません。